

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 国際日本学インスティテュート 修士課程《外国人》	2026年度 春季
小論文 (日本語)		

《解答又は解答例》

- 問1 ベネディクトの「恥の文化」説は日本社会の通念となっているが、恥を他者の眼を気にする外面的なものとのみ捉え、西洋の「罪」のような内面的倫理性を認めないのは偏った見方である。西谷啓治氏は、恥とは世間の評判がすべてではなく「自分が自分に対して恥じる」という内面性を持つのが日本人の「恥」の観念だと説き、南博氏も日本人における「恥・罪意識複合」を説いた。つまり、日本における恥は、「恥の文化」と「罪の文化」が併存しているのである。さらに、恥は、日常感情を超えてモラルの次元に達し、武士道では重要な概念だった。「忠臣蔵」では、名誉を守る恥の文化の軸が貫かれている。しかし現代では、日常的な恥へのこだわりは残る一方、名誉を核とするモラル的な恥の概念は形骸化が進んでいる。
- 問2 論文形式の設題であるため、具体的な解答例を示すことはできません。「恥の文化」に対する筆者の意見を含んだうえで、自らの考えを明確に論述してください。

《出題の意図》

長文の日本語の文章の読解を通じて、著者の主張や論理の展開を適切に把握する能力を測るとともに、自分の言葉で簡潔かつ正確にまとめる表現力を評価することを意図した問題です